

① 番神水湧水

座間公園の南側(円教寺の裏側)の段丘下にある「番神堂」の裏手から湧き出す湧水で、現在は防火用水や雨どみを潤すとして利用されています。

この湧水は、日蓮上人がお経を誦えながら地面を杖で突いたところ、こんこんと湧き出したものといわれ、昔から住民の大切な生活用水として、水道が引かれた昭和31年ごろまで利用されていました。

また、生活用水だけでなく、昭和初期頃までは、近くの酒造所が毎年仕込みの時期になると、大勢の社民を使ってこの水を木桶で何回も運んでいたといわれています。

この湧水の湧水量は、昭和12年頃に台上が陸軍士官学校(現:キャンパス座間)の用地になった頃から減少し、今では当時の半以下になったといわれています。



② 鈴鹿の泉湧水

龍源院の北側の段丘下から湧き出す湧水で、昔から周辺6世帯の井戸水に代わる大切な生活用水とともに、非常用の防火用水としても、昭和31年に水道が引かれるまで利用されてきました。

また、大正初期頃から終戦頃までの約30年間、関係者が共同組織をつくり、湧き出し口下の土地45坪程を龍源院から借りて開墾し、わざわざ栽培をしていたといわれています。



③ 龍源院湧水

鈴鹿明神社の東側の段丘下にある龍源院の裏手から湧き出す湧水です。

この湧水は、近くの鈴鹿明神社から縄文後期の遺跡が発掘され、この遺跡の水場が龍源院湧水のみであることから、鈴鹿遺跡の住人が生活用水として利用していたといわれています。

明治24年頃から第二次世界大戦頃までは、わび田として利用されており、現在もその名残をとどめています。

また、明治35年以降には、養蚕で得た生糸の繅糸器具や、精米器具を動かすための水車動力源としても利用されていました。



④ 心岩寺湧水

座間警察署の東側の段丘下にある心岩寺境内の池の奥から湧き出す湧水で、現在は池を潤す水として利用されています。

心岩寺では境内から土器片が発見されたり、東側の台地上でも縄文中期の遺跡が発掘されたりと、先史時代から周辺の貴重な生活用水として利用されていたといわれています。

また、湧出量が豊富であったため、寺の西側にあった後背湿地の水田にも利用されていたといわれています。



⑤ 神井戸湧水

県立座間高等学校の北東側交差点角にある湧水で、現在は昔の約1/10ほどの面積になってしまったといわれています。

この湧水は、古くから周辺住民の飲料水として利用されてきましたが、現在でも野菜等の洗い水として利用されています。

この湧水の名称については、生活のために必要な水を神様が恵んでくれた、神様が作ってくれた井戸という意味で「神井戸」といわれています。

湧水のpH及び湧水量		ml/日									
湧水	番神水	鈴鹿の泉	龍源院	心岩寺	神井戸	根下南	大下	大下	大下	大下	大下
pH(令和5年12月)	6.90	6.90	6.80	6.80	6.91	7.80	7.23				
湧水量(令和5年9月)	21	39	471	67	483	1	903				
湧水量(令和5年12月)	10	28	506	65	640	3	977				

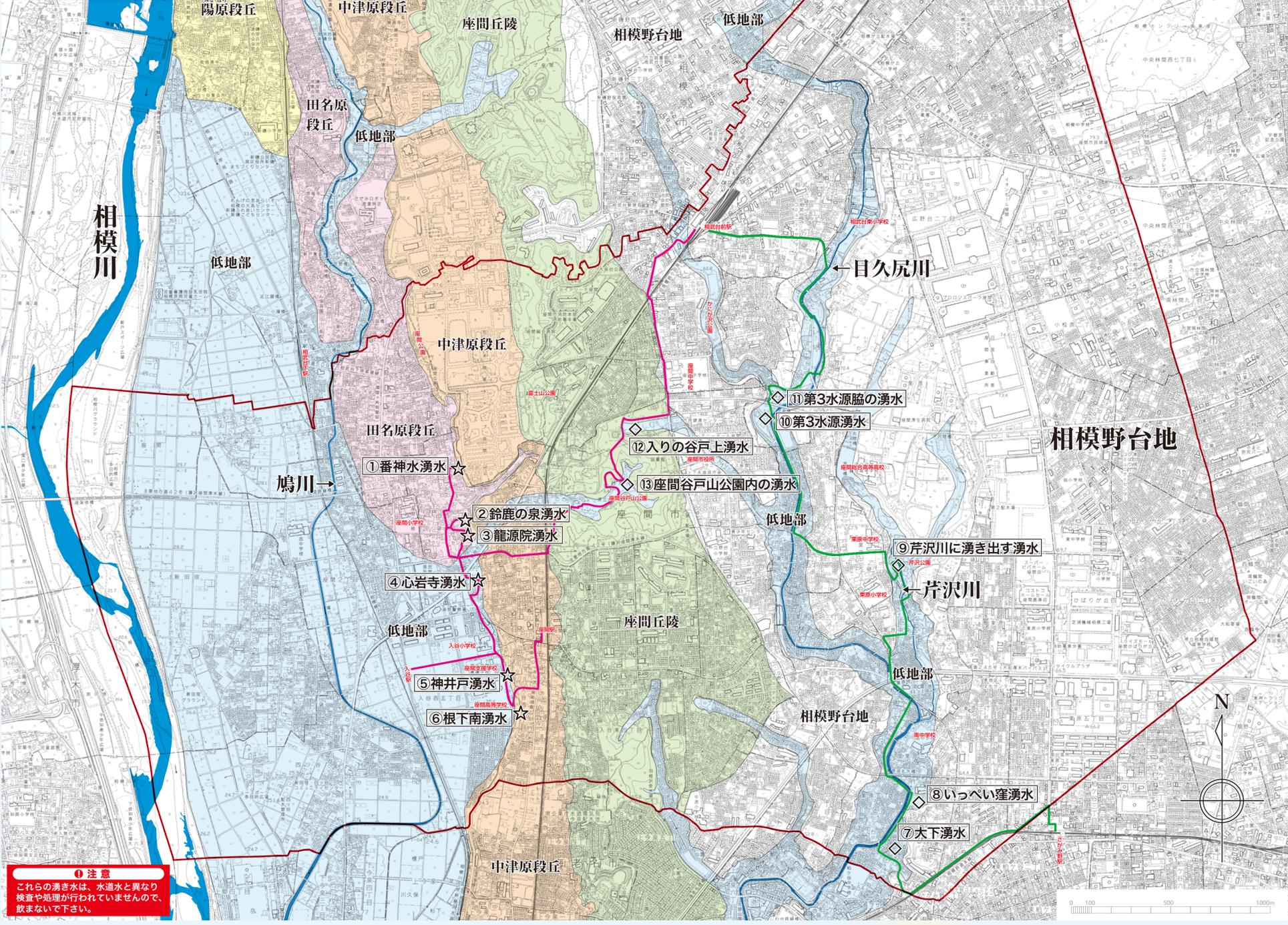
※1 芹沢川護岸湧水は、河川流量の差で算出しているため、pHの測定不可
 ※2 入りの谷戸上湧水は、湧水量が0のため、pHの測定不可
 [令和5年度座間市湧水量調査より]

湧水ざまッブ

湧水案内図

参考文献 座間市教育委員会発行「新版 座間の湧水」

☆印=崖線タイプ
 ◇印=谷頭タイプ
 ー 崖線湧水と座間谷戸山公園を巡るコース
 (座間駅・入谷駅→相武台前駅)
 水が湧き出している様子がよく分かるコースです。本コースでは、湧水以外にも文化財や座間谷戸山公園の広大な自然を見ることが出来ます。
 ー 目久尻川沿いの湧水を巡るコース
 (相武台前駅→さがみ野駅)
 湧水が流れ込むことにより、目久尻川の水量が下流に行くに従って増加し、川の様子が変わっていくのを感じることが出来るコースです。



① 注意
 これらの湧き水は、水道水と異なり検査や処理が行われていませんので、飲まないで下さい。



⑥ 根下南湧水

神井戸から150mほど南にある湧水です。昔は、周辺住民の生活用水として利用されていましたが、現在は枯溝が心配される湧水となってしまいました。



⑦ 大下湧水

いっぺい窪から直線距離で南に250mほど離れた住宅地の道路の下から湧き出す湧水です。

この湧水も東側の台地上で縄文時代の遺跡が見つかっており、古くは生活用水として、その後は、養魚場やわさび田を潤す水として利用されていました。

しかし、戦中の埋立てやその後の開発により、現在では湧き出し口を見つけるのが大変になってしまいました。

⑬ 座間谷戸山公園内の湧水

県立座間谷戸山公園内にある湧水で、湧き出し口は明らかではありませんが、園内の池や水田を潤しています。

この公園は自然生態観察公園として位置付けられており、園内の散策路を巡ると、季節の移り変わりによって様々な動植物を見ることが出来ます。

特に水辺には様々な動植物の命の営みが繰り返されていますので、目を凝らして観察してみてください。

ただし、この公園は自然の生態系を大事にしていますので、不用意に動植物に近づくのはやめましょう。

なお、園内の山野草や動物、昆虫、野鳥などを知りたい方は、各種団体などが開催する自然観察会に参加してみたい方がでしょうか。

⑩ 入りの谷戸上湧水

ひまわり公園テニスコートの下からわずかながら湧き出す湧水です。昔はここから南東方向に向かって谷(現在の市役所の東側の道路)があり、その谷に沿って目久尻川まで引込まれた水田となっており、湧水は流れていました。そして、この湧水は谷にあった水田や、谷川下流で暮らしていた住民の生活用水として利用されていました。

しかし、現在は周辺の開発が進んだ結果、湧水は枯れてしまいました。

⑩ 第3水源湧水(旧称:衛門沢湧水)

市営水道の第3水源下から湧き出す湧水です。昭和48年に第3水源ができるまでは、施設の南側にあった水田を潤すとして豊富な湧水に恵まれて、日照りが続いても田の水が枯れることがなかったといわれています。この水田は、都市化が進む前はかなりの量が湧いていて、グラウンド回りがあった水田を潤していたといわれています。



⑩ 第3水源湧水(旧称:衛門沢湧水)

市営水道の第3水源下から湧き出す湧水です。昭和48年に第3水源ができるまでは、施設の南側にあった水田を潤すとして豊富な湧水に恵まれて、日照りが続いても田の水が枯れることがなかったといわれています。この水田は、都市化が進む前はかなりの量が湧いていて、グラウンド回りがあった水田を潤していたといわれています。



⑨ 芹沢川に湧き出す湧水

この湧水は、芹沢公園内を流れる芹沢川の上流部に湧き出す湧水で、現在の芹沢川の源(北側より一部流入あり)となっています。

昔は、台地上にある多目的広場の東西に谷合のいたる所から湧き出し、小川となって現在の湧き出し口付近で合流するとともに、その合流付近でもかなりの量が湧き出し(沖の芹沢南湧水)、当時の芹沢川を形成し、水量も現在の芹沢川の3倍程あったといわれています。この小川には清流域を産生とするイシノ(クレンソウ)が川面に生え、地名のごとく芹の沢であったともいわれています。

また、この付近では芹沢川の清流で豊富な水を利用した養魚場もありました。

公園を訪れた時には、目を凝らして芹沢川を観察してみてください。



⑧ いっぺい窪湧水

南中学校の南に位置する巡礼橋の近くの私有地で湧き出す湧水です。

いっぺい窪の地名は、人によって「いっぺ窪」や「いっぺい窪」といわれていますが、「いっぺい窪」の名の由来はいつかの説があって明らかではありません。しかし、古くは巡礼者や近くを過る人たちが、ここで「一杯」の水をもらっていたことは確かでしょう。

そして、この湧水は面積が広く、何力所からも湧き出しており、昔はこの水を水田に利用していたそうですが、水が冷たく良い稲ができたため、後に土地所有者がこの水を利用して「わさび田」を開墾し、良質なわさびを収穫していたといわれています。現在もこの湧水を見守る環境保護団体が大切にわさびを育てています。

なお、この湧水は昔と比べるとかなり減ったといわれる「ホタル」の観察もできる場所です。

※無断で見学することはできません。



⑧ いっぺい窪湧水

南中学校の南に位置する巡礼橋の近くの私有地で湧き出す湧水です。

いっぺい窪の地名は、人によって「いっぺ窪」や「いっぺい窪」といわれていますが、「いっぺい窪」の名の由来はいつかの説があって明らかではありません。しかし、古くは巡礼者や近くを過る人たちが、ここで「一杯」の水をもらっていたことは確かでしょう。

そして、この湧水は面積が広く、何力所からも湧き出しており、昔はこの水を水田に利用していたそうですが、水が冷たく良い稲ができたため、後に土地所有者がこの水を利用して「わさび田」を開墾し、良質なわさびを収穫していたといわれています。現在もこの湧水を見守る環境保護団体が大切にわさびを育てています。

なお、この湧水は昔と比べるとかなり減ったといわれる「ホタル」の観察もできる場所です。

※無断で見学することはできません。